

1. 自己紹介：守谷（小山田） 手嶋（八王子） 青木（広袴） 鈴木（金井） 高橋（鶴川5丁目） 富岡（鶴川5丁目） 為我井（鶴川2丁目） 森（鶴川6丁目） 庄司（金井ヶ丘） 以下2名は遅れての参加で自己紹介無し：桜井（大蔵町）米永（榛名坂）
2. 資料にそって現況説明（鈴木）

①駅前図書館に指定管理者決定。6/24 選考委員会委員4名+臨時委員（野末俊比古：教育人間科学部教授（教育情報学・図書館情報学））で、選定：3社 TRC、久美堂ヴィアックス、ヤオキン商事のなかで、同点2社のうち地元の業者である久美堂ヴィアックスに決定。これから議会にかけ、本決定する。（PPTNo.3）

②URのお話し会

URとコミュニティービルダー（2名）が企画、準備。午前35名、午後10名の親子が参加。今後も団地を盛り上げるためにこのようなイベントを続けるとのこと。高橋さん親子と鈴木も演者として参加。（PPTNo.4）

③書庫の環境について

東側と南側にも窓、ドアあり。北側（入口側）に換気扇をつければ、明るさと換気の両面で改善見込みあり、お話し会や読書会などに利用できそう。おはなし会に参加する子どもたちのためにも通路側の高窓に換気扇取付を期待したい。（PPTNo.5）

④当会主催、鶴川図書っこ応援隊共催で夢基金の助成を使った「小学生向け紙芝居ワークショップ」について

3. 討議（司会：鈴木）

（最初に2回目のワークショップで出た意見をPPTNo.7に出して説明）

特に「今後の鶴川図書館をどうするかについて、こちらから明確な提案をしていく必要がある。直営で、会計年度任用職員だけでやっていく（八王子や荒川のように）ことはどうか。一方で、会計年度任用職員だけでしていくと、今までの嘱託職員のように雇止めがないという形でない、ノウハウの蓄積ができるのかという問題がある。また、常勤で専門職制度を採用する必要性も考えたい。」ということを考えるために、荒川区立図書館のホームページに載っていた「荒川区立図書館の組織と職員の配置」をPPTNo.8に示して、同図書館の地域館が正規職員1人と会計年度任用職員で運営していることを説明した。この後、討議に入った。

（庄司）図書館にゆったりするスペースがいることについてアイデアがある。図書館の前の通路に、ケーキ屋さんのようなテーブルと椅子を4、5セットおき、そこを図書館の“縁側”的なスペースにする。本を読んだりおしゃべりしたりできる。カードを持たない小学生でも、名前や書名や住所を記入することで本を持ってそこ

を利用するようにできたらいい。

(富岡) 図書館前の通路は、図書館の敷地。

(鈴木) 図書館はお金がなくて困っているのだから、テーブル等を買うことはできない。  
クラウドファンディングなどで集めるなど資金源を考えないといけない。

(庄司) 古本市の売り上げではどうか？

(守谷) (今までの説明の中で会計年度任用職員の問題が出ているので) 会計年度任用職員について、経緯説明(詳細省略)。

提案として、人員配置を常勤1名+会計年度職員の専門職数名にすることを出すにあたっては、5年の雇い止めをなくすことと、処遇改善をすることをなくしては提案できない。今後、荒川区の例を詳細に調べること、会計年度任用職員の組合と話し合いをすることが必要。常勤職員については、図書館が再任用などの受け皿になっている現実があり、このことがネックになる可能性がある。

(手嶋) 図書館運営が途切れないようにするためには、会計年度任用職員だけでなく、常勤職員も、司書の専門性を持つことが必要。専門職制度(採用時から)を確立する。図書館の管理運営をするのは、専門性を持った常勤職員であるべきだが、今は、管理職も資格を持ってない人がほとんどで、後退している。

(鈴木) 手嶋さんのおっしゃることはその通りだが、鶴川図書館の存続のための主張の中に、図書館問題をすべて入れて論じたら、受け入れられるものも受け入れられないのではないか。

(守谷) あくまでも存続させるための戦略の問題。(以前に配布した指定管理者制度Q&Aのプリントで例に挙げた) 豊中市の例では、専門職の常勤+非常勤の構成。制度設計の問題。図書館全体のあり方を考える中で、鶴川図書館問題は戦略として考えないといけない。

(森) 住民として「図書館がなくなると困る」「身近な図書館をなくさないで」ということを言い続けていくことが、一般の力を集める。細かい運営とか職員の話になると、よくわからずに、運動に参加する人、応援する人が減ってしまうのではないか？市民の要求を聞いてどのようにするかは市が考えることではないか。

(鈴木) だが、3年間、そのことを言い続けてきた。市はそこで、なくさないが市民にやってほしいと言ってきている。

(森) 要求を言い続けてきたから市は無視できなくなっている。残してほしいといい続けることが大事で、こちらから案を提案する必要はないのではないか。

(富岡) 市は、「鶴川図書館は残す、予算は出す、市民には何らかの形で関わってほしい。存続する方向性かかわり方を市民が出してほしい」と言っている。

(桜井) 市民がどんなことをやれるのか、共同でやってみるといような段階的なやり方、お試し期間があってもいいのではないか。

(庄司) 市民がどのくらいできるのか、専門性の蓄積がない図書館は図書館ではない。

市民の相談に答え、本を探し、また必要とする本を選ぶ専門性がなければ。

市民するのは無理だと思う。直営を守るために、常勤1名と専門性を持った任用職員での運営をすればどのくらいの費用でできるのか、具体的な提案をすることはいいと思う。

(鈴木) 第1回目のWSで試算は出した。荒川区の場合は、サービスステーションというのもあり、これは規模は小さく、小説と児童書と実用書しか置かないが、その他の図書館が1kmくらいの距離にあるので、規模は小さくなくても、今よりも快適な図書館というものを提案してもいいのではないか。

(青木) 荒川区の例は興味がある。行政任せにしないで、納得いかないことは言い、どうしていくかを考えることも大事だと思う。鶴川は鶴川の地域性を大事にして行かなければと思うし、図書館の活動についても地域性をしっかり考えて欲しい。私達はその思いを伝えるために他市の情報もしっかり学ぶ必要があり、地域の思いの深さをどういう形であらわしていくかが大切だと思う。応援まつりのような活動で地域の思いを伝えていくことも大事なので、頑張っていきたいと思います。

(守谷) つい最近、中央図書館でおそらく自費出版された地域資料の本をみつけて、地域に根ざした内容を興味深く読んだ。図書館員はこういう本を探し出して所蔵するのが大事な仕事で、指定管理や雇い留めで職員が入れ替わる図書館ではできない。

(手嶋) 荒川区の実際の様子は、組合に聞くなどして調べてみる。

(鈴木) 荒川区のことは私ももう少し詳しく調べてみる。

(守谷) 会計年度任用職員が図書館の運営そのものに携われるようにならないといけない。

(高橋) 鶴川図書館を残すためには職員のことなど詳しいことも考えないといけないことは分かった。自分としては、活動としてのイベントに関わりたい。今回の紙芝居ワークショップは、小学生のためとなっているが、中高生のプレゼンの取り組みにも活かそうなので、中高生も今後対象にして欲しい。

(守谷) コミュニティビルダーは、祭りに参加してくれるだろうか？

(富岡) コミュニティビルダーは、URが団地を盛り上げるためにヤドカリに委託しているもので、市とは関係ないので図書館応援まつりに関わることは可能だと思う。土日に限るが。

URから、商店街の建て替えについて具体的な提案があった。図書館については、市の依頼がないので具体的にはなっていない。商店会は、図書館と郵便局がなければ建て替えは拒否すると伝えてある。大好き！の会で、図書館の提案をするといい。住民との協働の形も。

(守谷) 図書館と商店会とつなぐ立場で、大好きの会が図書館友の会のような形で関わったらいいのではないか。

図書館応援祭りについて（前回のワークショップで出たい提案をたたき台にして）

中高生にどんなことをしたいか聞いて参加してもらいたい。

(高橋) チームを組んで、自分がある程度関わって子供たちの意見を引き出し、提案したい。

(守谷) 広場の舞台のところで、ビブリオバトルをやってはどうか。

大人の部、中高生の部。

(高橋) 中高生も参加できる。

○古本市

○自費出版の本を売る場を提供？

○本に関わる人を集める？

○UR が鶴川団地には本屋がないので、ブックトラック（車による移動の本屋）も協力団地に加えている。こういうところとも協力できるのか検討。

時期：10月17日あたりを候補としたい（コロナのことと寒さのことを考慮して）

（団地鶴川バザールは10月31日）

今後の段取り：

8月21、22日あたり、ZOOM 会議を開いて、具体的に催しや担当者を決めたい。9月にはチラシ作成。